

# Windows および Linux 用のイン ストールおよび構成ガイド

vCenter Operations Manager 5.6

このドキュメントは新しいエディションに置き換わるまで、  
ここで書いてある各製品と後続のすべてのバージョンをサ  
ポートします。このドキュメントの最新版をチェックする  
には、<http://www.vmware.com/jp/support/pubs> を参  
照してください。

JA-000820-00

**vmware**<sup>®</sup>

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<http://www.vmware.com/jp/support/>) にあります  
VMware の Web サイトでは最新の製品アップデートも提供されています。

このドキュメントに関するご意見およびご感想がある場合は、[docfeedback@vmware.com](mailto:docfeedback@vmware.com) までお送りください。

Copyright © 2012 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。本製品は、米国著作権法および米国知的財産法ならびに国際著作権法および国際知的財産法により保護されています。VMware 製品には、<http://www.vmware.com/go/patents-jp> に列記されている 1 つ以上の特許が適用されます。

VMware は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。他のすべての名称ならびに製品についての商標は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

**VMware, Inc.**  
3401 Hillview Ave.  
Palo Alto, CA 94304  
[www.vmware.com](http://www.vmware.com)

**ヴェムウェア株式会社**  
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5  
浜松町スクエア 13F  
[www.vmware.com/jp](http://www.vmware.com/jp)

# 目次

vCenter Operations Manager のインストール ガイド	5
vCenter Operations Manager のインストール前に	5
システム要件	6
インストールおよび構成チェックリスト	7
vCenter Operations Manager データベースの準備	8
vCenter Operations Manager のインストール	10
vCenter Operations Manager インストールの検証	18
プログラム グループの管理	19
vCenter Operations Manager コレクタのインストール	19
vCenter Operations Manager アダプタのインストール	21
分析プロセッサのインストール	21
インデックス	23



# vCenter Operations Manager のインストール ガイド

---

『vCenter Operations Manager インストールおよび構成ガイド』では、Windows または Linux OS 上での VMware vCenter Operations Manager のインストールおよびアップグレードについての情報を提供します。

## 対象読者

本書は、これから vCenter Operations Manager をインストールする方を対象としています。

## vCenter Operations Manager のインストール前に

このセクションでは、vCenter Operations Manager サーバのインストールについて説明します。

### 概要

vCenter Operations Manager のインストールは、2つの手順で構成されています。

- 1 vCenter Operations Manager のデータを保持する SQL Server または Oracle のいずれかでのデータベースの準備。
- 2 vCenter Operations Manager ソフトウェアのインストール。

vCenter Operations Manager は、エンタープライズソリューションとして設計されているため、デプロイを成功させるためには、環境の計画および準備が不可欠となります。vCenter Operations Manager の環境を計画するときは、いくつかの要因を考慮する必要があります。

- 環境のサイズおよびランドスケープ - vCenter Operations Manager のアーキテクチャでは、アプリケーションの数、データソース、リソースおよびメトリック、物理環境の分散（データセンターの数）およびユーザー数など、環境の大きさを考慮しなければなりません。
- 環境の複雑性 - どのようなアーキテクチャ上の要件およびサービス レベルの要件を満たさなければならないか。これには、セキュリティ、可用性およびアクセシビリティが含まれます。

### アーキテクチャ

vCenter Operations Manager のアーキテクチャでは、デプロイの柔軟性が得られます。

vCenter Operations Manager は、次の 4 つの独立したコンポーネントを持つ Java ベースのアプリケーションです。

- vCenter Operations Manager サーバ - ユーザー インターフェイスをホストし、他のコンポーネントとの通信のコントロールなど、ソフトウェアの機能を調整します。
- vCenter Operations Manager 分析 - 監視対象のリソースから集めたメトリックを受信し、データを分析し、異常な動作を検出するための統計モデルを作成します。これには、動的しきい値プロセッサが含まれます。これは、「[分析プロセッサのインストール \(P. 21\)](#)」に記載されているように、処理負荷を分散させるため、別個にインストールできます。

- vCenter Operations Manager コレクタ - vCenter Operations Manager と収集ランドスケープからデータを収集するために使用するアダプタとの間のゲートウェイのような働きをします。これは、プライマリ サーバの一部としてデフォルトでインストールされますが、スタンドアロン コンポーネントとしても配布できます。ファイアウォールのナビゲーション、データセンター間のバンド幅の共有、および vCenter Operations Manager サーバに対する負荷の軽減を実行するため、1 つあるいは複数のリモート コレクタをインストールできます。共有サーバにコレクタをインストールすることができます。
- vCenter Operations Manager メッセージング - メッセージパス (ActiveMQ) が、  
vCenter Operations Manager コンポーネント間のメトリック情報を受け渡します。

vCenter Operations Manager には、2 つのデータ ストレージ ソリューションが使用されています。リレーショナル データベース (Oracle または Microsoft SQL Server) は、構成および状態のデータを保存します。独自の高性能ファイル システム ベース リポジトリ (FSDB) は、収集された生メトリックを保存します。

インストール スクリプトにより、すべての vCenter Operations Manager コンポーネント (メッセージングを含むサーバ、コレクタ、および分析) が同じフォルダ構造内にインストールされます。また、複数の vCenter Operations Manager システム ツールもインストールされます。

## システム要件

vCenter Operations Manager には、特別なハードウェア要件とソフトウェア要件があります。

### オペレーティング システムの要件

サポートされている OS に vCenter Operations Manager をインストールする必要があります。

vCenter Operations Manager は、次の OS に対応しています。

表 1. オペレーティング システム

オペレーティング システム	バージョン	サービス パック
Windows Server 2000	64 ビット	SP2 以降
Windows Server 2008	64 ビット	該当なし
Red Hat Enterprise Linux	64 ビット	該当なし

### ハードウェア要件

特定のハードウェア要件を満たす 64 ビットのマシンに vCenter Operations Manager サーバをインストールする必要があります。

表 2. ハードウェア要件

ハードウェア コンポーネント	100 万件のメトリック	200 万件のメトリック	600 万件のメトリック
CPU	4CPU	8CPU	32CPU
メモリ	14GB	28GB	72GB
ディスク ストレージ	1.5TB FSDB : 1.5TB データベース : 100GB	3TB FSDB : 2.8TB データベース : 200GB	8.8TB FSDB : 8.4TB データベース : 400GB
分析仮想マシン用のディスク I/O	2,000 IOPS	4,000 IOPS	12,000 IOPS

## vCenter Operations Manager のデータベース サーバの要件

vCenter Operations Manager がデータを保存するには、SQL または Oracle データベースが必要です。データベースサーバは、vCenter Operations Manager データベース専用のものでなければなりません。データベースを構成し、vCenter Operations Manager サーバ ホストで使用できるようにする必要があります。

vCenter Operations Manager は、次のデータベース サーバとバージョンをサポートしています。

- Oracle 10g Release 2
- Oracle 11g Release 2
- Microsoft SQL Server 2005 SP2 以降
- Microsoft SQL Server 2008

---

**注意** Microsoft SQL Server は、Windows ホスト上でのみサポートされます。

---

データベース サーバをホストするコンピュータは、最低限のハードウェア要件を満たす必要があります。

---

**注意** Microsoft SQL Server を使用中に統合された Windows 認証を使用することはできません。JDBC ドライバは、**integratedSecurity** 接続の文字列プロパティを通じ、Windows OS 上でのタイプ 2 の統合された認証の使用をサポートしています。統合された認証を使用するには、**sqljdbc\_auth.dll** ファイルをフォルダ **%ALIVE\_BASE%/common/bin** へコピーします。

---

- 2GB RAM
- 2つの32ビットCPU、P4 2GHz 以上

100 万以上のメトリックを収集するシステムの場合、データベース サーバ ホストには、8GB の RAM と 2 つの 64 ビットの CPU が必要です。

データベース サーバ ホストと vCenter Operations Manager サーバ ホストとの間の ping 時間は、1 ミリ秒未満でなければなりません。

## クライアント システムのハードウェアおよびソフトウェア要件

お使いのシステムが vCenter Operations Manager クライアントをサポートしていることを確認します。

**表 3.** クライアント システムのハードウェアとソフトウェアの要件

コンポーネント	要件
RAM	2GB 以上
ブラウザ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Internet Explorer 7.x、8.x、または 9</li> <li>■ Mozilla Firefox 16.x</li> </ul> JavaScript を有効にする必要があります。ポップアップ ブロッカーを削除するか、無効化してください。
PDF ビューア	レポートを表示するには、Adobe Reader または類似の PDF ビューアが必要です。

## インストールおよび構成チェックリスト

このチェックリストを使用し、vCenter Operations Manager スタンドアロンのインストールおよび構成の進捗を追跡します。これには、デフォルトの構成設定を変更した内容がすべて含まれています。

---

**注意** 構成設定の変更は、このガイドの対象範囲外です。お使いのインストールの適切な設定を判断するには、VMware の担当者にお問い合わせください。

---

表 4. インストールのチェックリスト

操作項目	メモ
[プリインストール]	
サイズの予測に基づいてハードウェアを取得します。	
ソフトウェアをダウンロードします。	
[データベースの準備]	
SQL Server の場合：	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ SQL Server をインストールします。</li> <li>■ 新しいデータベースを作成するのに十分な権限を持つ Windows または SQL 認証アカウントを作成します。</li> </ul>	
Oracle の場合：	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Oracle をインストールします。</li> <li>■ SQLPlus ツールをインストールし、構成します。</li> <li>■ テーブルスペースおよびユーザー スキーマを作成するのに十分な Oracle の権限を持つユーザーを作成します。</li> </ul>	
[ハードウェアの準備]	
vCenter Operations Manager サーバおよびデータベース サーバへの外部ポート アクセスを確認します。デフォルトのサーバポートに含まれているもの：	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ リモート コレクタ： 80、1100、61616</li> <li>■ 外部： 1433、1521</li> </ul>	
vCenter Operations Manager サーバ上で次のポートが予約されていることを確認します。1099、1100、1199、1201、1202、1203、61616	
vCenter Operations Manager サーバとデータベース サーバとの間の応答時間が 1 ミリ秒より長いことを確認します。	
[インストール]	
プライマリ vCenter Operations Manager サーバをインストールし、構成します。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ vCenter Operations Manager データベース構成のテスト</li> <li>■ FSDB ホーム パスの検証</li> <li>■ 構成ウィザードを完了する前に、すべての未使用のアダプタ (Hyperic、ITM、SCOM など) をプラグイン ディレクトリへ移動します。</li> </ul>	
(オプション) バックアップ オプションを使用してセカンダリ サーバをインストールし、構成します。	
(オプション) リモート コレクタをインストールし、構成します。	

## vCenter Operations Manager データベースの準備

vCenter Operations Manager をインストールする前に、Microsoft SQL Server または Oracle のいずれかで vCenter Operations Manager のデータを保存するデータベースを作成する必要があります。

### Windows ホスト上での SQL データベースの準備

SQL スクリプトを実行することにより vCenter Operations Manager 用の SQL データベースを準備します。SQL スクリプトは、vCenter Operations Manager インストール パッケージに含まれています。

#### 開始する前に

- vCenter Operations Manager のデータベース サーバの要件について理解しておく必要があります。[[vCenter Operations Manager のデータベース サーバの要件 \(P. 7\)](#)] を参照してください。



- SQL Server をインストールします。
- 新しいデータベースと新しい SQL ユーザーを作成するのに十分な権限を持つ Windows 認証アカウントまたは SQL 認証アカウントを作成します。
- vCenter Operations Manager インストール パッケージを取得します。
- SQL スクリプトを含んでいる次の zip ファイルを解凍します。 `vcops-db-scripts-sqlserver-<ビルド番号>.zip`。

#### 手順

- 1 SQL Server に Windows 認証を使用する場合は、データベースを作成するのに十分な権限を持つユーザーとしてログインします。
- 2 Microsoft SQL Server インスタンス内に新しいデータベースを作成します。
- 3 SQL Server Management Studio で、新しいデータベースに接続して、解凍された zip ファイルから `vcops_sqlserver_10.sql` スクリプトを実行します。
- 4 または、コマンドライン ツール `sqlcmd` を使用して、スクリプト `vcops_sqlserver_10.sql` を実行できます。

```
sqlcmd -S <databaseServer> -i vcops_sqlserver_10.sql -U <databaseUsername> -P
<databasePassword> -d <databaseName>
```

スクリプトを実行するには、次の Microsoft の Web サイトから、Microsoft SQL Server 2008 R2 コマンドライン ユーティリティと依存パッケージをダウンロードしてインストールする必要があります。

<http://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=16978>

#### 次に進む前に

vCenter Operations Manager サーバをインストールします。[[Windows への vCenter Operations Manager のインストール \(P. 10\)](#)] を参照してください。

## Windows ホスト上での Oracle データベースの準備

Oracle データベースが Windows ホスト上にある場合は、バッチ ファイルを実行して vCenter Operations Manager のデータを保存するデータベースを準備することができます。バッチ ファイルは、vCenter Operations Manager インストール パッケージに含まれています。

バッチ ファイルにより、`vcops10_TS` という名前の 500MB の Oracle テーブルスペース、`vcops` という名前の Oracle スキーマ、vCenter Operations Manager のデータベース オブジェクト (テーブル、インデックスおよびシーケンスを含む)、およびデータベースの大文字と小文字を区別するトリガが作成されます。構成をさらにコントロールするために、これらの操作を手動で実行することもできます。手動構成プロセスについての指示は、vCenter Operations Manager のインストール ディレクトリにある `Readme.txt` ファイルを参照してください。

#### 開始する前に

- データベース サーバの要件について理解しておく必要があります。[[vCenter Operations Manager のデータベース サーバの要件 \(P. 7\)](#)] を参照してください。
- Oracle をインストールします。
- sqlplus ツールをインストールして、構成します。
- テーブルスペースおよびユーザー スキーマを作成するのに十分な Oracle の権限を持つユーザーを作成します。
- テーブルスペースを作成するディスクを決定します。
- vCenter Operations Manager インストール パッケージを取得します。

#### 手順

- 1 `tnsnames.ora` ファイルで、vCenter Operations Manager サーバが Oracle サーバへ接続するために使用できる接続名を追加します。

- 2 **vcops.oracle.zip** から使用可能な任意のディレクトリへファイルを展開します。  
**vcops.oracle.zip** は、vCenter Operations Manager の実行可能ファイルと同じフォルダにあります。
- 3 **setup.bat** を実行します。  
例： **setup.bat <connection> <user> <password>**  
<connection> は、**tnsnames.ora** で定義されている接続名です。<user> および <password> で指定したユーザーには、Oracle データベースへ SYSDBA としてログインする権限が必要です。
- 4 テーブルスペースとユーザー スキーマが正しく作成されていることを確認します。

#### 次に進む前に

vCenter Operations Manager サーバをインストールします。[[Windows への vCenter Operations Manager のインストール \(P. 10\)](#)] を参照してください。

## vCenter Operations Manager のインストール

vCenter Operations Manager ソフトウェアを、Windows か Linux のサポートされているいずれかのバージョンにインストールできます。GUI モードを使用する Windows、Linux、およびコンソール モードを使用する Linux について、別々の手順があります。

### Windows への vCenter Operations Manager のインストール

vCenter Operations Manager をサポートされているバージョンの Windows にインストールします。

#### 開始する前に

- VMware では、管理者のユーザー名を使用することを推奨します。
- サービスを作成するのに十分な権限を持つユーザーとしてログオンする必要があります。
- SQL Server を Windows 認証で使用する場合は、データベースの作成と変更が可能である必要もあります。

#### 手順

- 1 ホスト マシンへログインし、vCenter Operations Manager 実行可能ファイルを含むフォルダへ移動します。
- 2 **VMware-vcops-5.0.exe** ファイルを実行します。vCenter Operations Manager インストール ウィザードの最初のページが表示されます。
- 3 [Next] をクリックします。
- 4 特許協約をよく読みます。[Next] をクリックします。
- 5 使用許諾契約書をよく読みます。[使用許諾契約書に同意します] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 6 [インストール セットの選択] ページで、完全インストールの横にあるアイコンをクリックし、[次へ] をクリックします。

これで、vCenter Operations Manager コンポーネントがすべてインストールされます。vCenter Operations Manager を 32 ビットのシステムにインストールする場合は、完全インストールを選択できません。32 ビットのシステムにインストールできるのは、vCenter Operations Manager リモート コレクタか、個別の分析プロセッサのみとなります。

---

**注意** [コレクタ] オプションでは、パフォーマンスとアクセシビリティを向上させるため、リモート サーバに vCenter Operations Manager コレクタのみがインストールされます。[[vCenter Operations Manager コレクタのインストール \(P. 19\)](#)] を参照してください。

---

- 7 [インストール フォルダの選択] ページで、[OK] をクリックしてデフォルトのインストール フォルダを受け入れるか、[参照] をクリックしてインストール先フォルダを選択します。デフォルトのインストール フォルダは、お使いのシステムのデフォルトのプログラム インストール フォルダの下の `\vmware\vcenter-operations` です。デフォルトを受け入れることをお勧めします。[Next] をクリックします。
- 8 [プリインストール サマリ] ページには、インストールされるコンポーネントが一覧表示されます。[インストール] をクリックして、インストールを開始します。プロセスのこの部分が完了すると (これには数分かかる場合があります)、[構成モード] ページが表示されます。
- 9 [構成モード] ページで、[基本] または [詳細] を選択します。次の項目のいずれか 1 つ以上に該当する場合にのみ、詳細構成を使用してください。
  - リモート vCenter Operations Manager コレクタと vCenter Operations Manager サーバとの間の通信が、ファイアウォールまたは HTTP プロキシ経由となる場合。
  - vCenter Operations Manager は、100,000 を超えるリソースを監視している場合。
  - プライマリ vCenter Operations Manager サーバとバックアップ サーバとの間のレプリケーションが有効化されている場合。
  - セキュリティ上の理由から、vCenter Operations Manager コンポーネントがデフォルトのパスワードおよびポートを使用しないほうがよいと判断される場合もあります。
- 10 [フル構成] ページで、[サーバ構成] の下の [プライマリ] または [バックアップ] を選択します。
- 11 [データベース タイプ] フィールドで、[SQL] または [Oracle] を選択します。選択したデータベースに適したフィールドがページ上に表示されます。  
Oracle データベースの場合、[データベース名] と [インスタンス名] のフィールドは表示されず、[SID] フィールドが追加されます。
- 12 Oracle データベースを使用している場合は、[SID] フィールドにそのシステム識別子を入力します。
- 13 [データベース ホスト] フィールドに、データベース サーバの IP アドレスを入力します。
- 14 [データベース ポート] フィールドは、別のポート番号を使用してデータベースをインストールしていない限り、デフォルトの入力値 (SQL Server は 1433、Oracle は 1521) のままにしておきます。
- 15 SQL Server データベースを使用している場合は、[データベース名] フィールドに vCenter Operations Manager データベースの名前を入力します。
- 16 SQL Server データベースを使用している場合は、[データベース名] フィールドに vCenter Operations Manager データベースの名前を入力します。
- 17 [認証]、[ユーザー名]、および [パスワード] の各フィールドでは、使用する認証のタイプを選択し (SQL Server データベースの場合のみ)、SQL Server データベースまたは Oracle スキーマの読み書きの権限を持つユーザーのユーザー名およびパスワードを入力してください。  
vCenter Operations Manager がデータベースとの接続を確立するには、SQL 認証の認証情報を持つユーザー アカウントが必要です。SQL Server に Windows 認証を使用する場合は、インストールの完了後に追加の手順を実行する必要があります。
- 18 [テスト] ボタンをクリックし、データベースへの接続をテストします。テストに失敗した場合、入力値を確認して必要な修正を行い、もう一度実行してください。
- 19 [vCenter Operations Server の構成] で、[HTTP] または [HTTPS] を選択します。これにより、vCenter Operations Manager サーバへのクライアント接続に使用するプロトコルが設定されます。  
vCenter Operations Manager は、vCenter Operations Manager サーバへのハイパーリンクを含むアラート E メール メッセージを送信し、管理者がアラートに関する詳細な情報を参照できるようにします。オフサイトの管理者がこれらのリンクを使用できるようにするには、必ず vCenter Operations Manager サーバの公開 IP アドレスを入力してください。ホスト名を `localhost` に設定しないでください。

- 20 HTTP ポスト メソッドを使用するアダプタで Web 認証を使用する場合は、HTTP ポスト アダプタ Web 認証を有効にするというチェックボックスを選択します。このチェックボックスをオンにすると、管理アクセス権を持つ vCenter Operations Manager のユーザーのみが vCenter Operations Manager ヘデータをポストできるようになります。
- 21 [vCenter Operations サーバポート] フィールドには、選択したプロトコルのデフォルトのポート番号が表示されます。このポートを変更する必要がある場合は、正しい番号を入力してください。
- 22 vCenter Operations Manager サーバへのインターネット接続を有効にするには、[vCenter Operations サーバホスト] フィールドにサーバ名かサーバの公開 IP アドレスを入力します。(インストーラは、サーバのホスト名または IP アドレスを検出し、それをデフォルトとして入力しようとします。)このフィールドを空白のままにしておくと、ユーザーはローカル ネットワークの外から接続することができなくなります。
- 23 [FSDB ホーム (ファイルシステム データベース)] フィールドで、vCenter Operations Manager が収集するメトリックを保存するディレクトリへのパスを入力します。ドライブ I/O の使用を分散するために、最大で 8 つの場所を入力できます。複数を入力する場合は、セミコロンで区切ります。最高のパフォーマンスを得るために、これを vCenter Operations Manager ソフトウェアがインストールされているドライブと同じドライブに置かないようにしてください。
- 24 [SMTP ホストと SMTP ポート] に、vCenter Operations Manager が E メール メッセージを送信するのに使用する SMTP サーバのホスト名/IP アドレスとポート番号を入力します。
- 25 [受信者] に、1 つあるいは複数の E メール アドレスを入力します。複数を入力する場合は、コンマで区切ります。vCenter Operations Manager サービスが失敗するか、問題が発生した場合、各受信者に E メールが送信されます。
- 26 必要に応じて、[テスト] ボタンをクリックして E メール構成をテストします。ここで、SMTP ホストおよびポートの設定が確認され、入力した受信者宛に E メール メッセージの送信が試みられます。いずれかのテストに失敗すると、該当するメッセージが表示されます。ただし、存在しないアドレスへメッセージを送信しても、すぐに失敗とされないため、受信者として入力された E メール アドレスが実際に存在することを確認することはできません。
- 27 [終了] をクリックしてインストールを完了します。[インストールの完了] ページが表示されます。
- 28 [インストールの完了] ページで、[完了] をクリックします。
- 29 サーバホストに 2 つの IP アドレスがある場合は、
  - [いいえ] を選択して [完了] をクリックします。
  - ファイル `vcenter-ops\user\conf\collector\wrapper.conf` を開きます。
  - 次の行をファイルに追加します：
 

```
wrapper.java.additional.9=-Djava.rmi.server.hostname=IP Address/Name。ここでは、IP アドレス/名前がコレクタに使用する IP アドレスまたはホスト名となります。
```
  - 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。
  - システムを再起動します。

vCenter Operations Manager のインストールが完了します。

## vCenter Operations Manager の Linux へのインストール - GUI モード

vCenter Operations Manager をサポートされているバージョンの Linux にインストールします。

vCenter Operations Manager の以前のバージョンがすでに Linux ホストにインストールされている場合は、vCenter Operations Manager をインストールする前にそのプロセスを停止する必要があります。これは、`vcenter-ops/vcops.sh` を使用して実行できます。stop パラメータとともに、このスクリプトを実行します：

```
vcops.sh stop
```

サービスがすべて停止したことを確認するには、status パラメータを使用します。

```
vcops.sh status
```

## 開始する前に

- vCenter Operations Manager のインストール用の Linux ユーザー アカウントには、ルート レベルの権限が必要です。ルート以外のアカウントでインストールを実行できるようにしたい場合は、VMware プロフェッショナル サービスまでお問い合わせください。
- X Windows システム リリース 11 (X11) を Linux サーバ上で実行する必要があります。
- X Windows システム用の標準ターミナル エミュレータが必要です。

## 手順

- 1 バイナリ モードを使用して、vcops.bin をターゲット Linux ホストへアップロードします。
- 2 **vcops.bin** があるフォルダに移動します。
- 3 実行可能となるよう、このファイル上の権限を変更します：
 

```
chmod +x vcops.bin
```
- 4 X Windows 用の標準ターミナル エミュレータから、プログラム **vcops.bin** を実行します。  
vCenter Operations Manager インストール ウィザードの最初のページが表示されます。
- 5 [Next] をクリックします。
- 6 特許協約をよく読みます。[Next] をクリックします。
- 7 使用許諾契約書をよく読みます。[使用許諾契約書の条項に同意します] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 8 [インストール セットの選択] ページで、完全インストールの横にあるアイコンをクリックし、[次へ] をクリックします。

これで、vCenter Operations Manager コンポーネントがすべてインストールされます。vCenter Operations Manager を 32 ビットのシステムにインストールする場合は、完全インストールを選択できません。32 ビットのシステムにインストールできるのは、vCenter Operations Manager リモート コレクタか、個別的分析プロセッサのみとなります。

---

**注意** [コレクタ] オプションでは、パフォーマンスとアクセシビリティを向上させるため、リモート サーバに vCenter Operations Manager コレクタのみがインストールされます。[\[vCenter Operations Manager コレクタのインストール \(P. 19\)\]](#) を参照してください。

---

- 9 [インストール フォルダの選択] ページで、[OK] をクリックしてデフォルトのインストール フォルダを受け入れるか、[参照] をクリックしてインストール先フォルダを選択します。デフォルトのインストール フォルダは、`/root/vmware/vcenter-operations` です。デフォルトを受け入れることをお勧めします。[Next] をクリックします。
- 10 [プリインストール サマリ] ページには、インストールされるコンポーネントが一覧表示されます。[インストール] をクリックして、インストールを開始します。プロセスのこの部分が完了すると (これには数分かかる場合があります)、[構成モード] ページが表示されます。
- 11 [構成モード] ページで、[基本] または [詳細] を選択します。次の項目のいずれか 1 つ以上に該当する場合にのみ、詳細構成を使用してください。
  - リモート vCenter Operations Manager コレクタと vCenter Operations Manager サーバとの間の通信が、ファイアウォールまたは HTTP プロキシ経由となる場合。
  - vCenter Operations Manager は、100,000 を超えるリソースを監視している場合。
  - プライマリ vCenter Operations Manager サーバとバックアップ サーバとの間のレプリケーションが有効化されている場合。
  - セキュリティ上の理由から、vCenter Operations Manager コンポーネントがデフォルトのパスワードおよびポートを使用しないほうがよいと判断される場合もあります。
- 12 [フル構成] ページで、[サーバ構成] の下の [プライマリ] または [バックアップ] を選択します。

- 13 [データベース タイプ] フィールドで、[SQL] または [Oracle] を選択します。選択したデータベースに適したフィールドがページ上に表示されます。
- Oracle データベースの場合、[データベース名] と [インスタンス名] のフィールドは表示されず、[SID] フィールドが追加されます。
- 14 Oracle データベースを使用している場合は、[SID] フィールドにそのシステム識別子を入力します。
- 15 [データベース ホスト] フィールドに、データベース サーバの IP アドレスを入力します。
- 16 [データベース ポート] フィールドは、別のポート番号を使用してデータベースをインストールしていない限り、デフォルトの入力値 (SQL Server は 1433、Oracle は 1521) のままにしておきます。
- 17 SQL Server データベースを使用している場合は、[データベース名] フィールドに vCenter Operations Manager データベースの名前を入力します。
- 18 [認証]、[ユーザー名]、および [パスワード] の各フィールドでは、使用する認証のタイプを選択し (SQL Server データベースの場合のみ)、SQL Server データベースまたは Oracle スキーマの読み書きの権限を持つユーザーのユーザー名およびパスワードを入力してください。
- vCenter Operations Manager がデータベースとの接続を確立するには、SQL 認証の認証情報を持つユーザー アカウントが必要です。SQL Server に Windows 認証を使用する場合は、インストールの完了後に追加の手順を実行する必要があります。
- 19 [テスト] ボタンをクリックし、データベースへの接続をテストします。テストに失敗した場合、入力値を確認して必要な修正を行い、もう一度実行してください。
- 20 [vCenter Operations Server の構成] で、[HTTP] または [HTTPS] を選択します。これにより、vCenter Operations Manager サーバへのクライアント接続に使用するプロトコルが設定されます。
- vCenter Operations Manager は、vCenter Operations Manager サーバへのハイパーリンクを含むアラート E メール メッセージを送信し、管理者がアラートに関する詳細な情報を参照できるようにします。オフサイトの管理者がこれらのリンクを使用できるようにするには、必ず vCenter Operations Manager サーバの公開 IP アドレスを入力してください。ホスト名を **localhost** に設定しないでください。
- 21 HTTP ポスト メソッドを使用するアダプタで Web 認証を使用する場合は、HTTP ポスト アダプタ Web 認証を有効にするというチェック ボックスを選択します。このチェック ボックスをオンにすると、管理アクセス権を持つ vCenter Operations Manager のユーザーのみが vCenter Operations Manager へデータをポストできるようになります。
- 22 [vCenter Operations サーバ ポート] フィールドには、選択したプロトコルのデフォルトのポート番号が表示されます。このポートを変更する必要がある場合は、正しい番号を入力してください。
- 23 vCenter Operations Manager サーバへのインターネット接続を有効にするには、[vCenter Operations サーバ ホスト] フィールドにサーバ名かサーバの公開 IP アドレスを入力します。(インストーラは、サーバのホスト名または IP アドレスを検出し、それをデフォルトとして入力しようとします。)このフィールドを空白のままにしておくと、ユーザーはローカル ネットワークの外から接続することができなくなります。
- 24 [FSDB ホーム (ファイル システム データベース)] フィールドで、vCenter Operations Manager が収集するメトリックを保存するディレクトリへのパスを入力します。ドライブ I/O の使用を分散するために、最大で 8 つの場所を入力できます。複数を入力する場合は、セミコロンで区切ります。最高のパフォーマンスを得るために、これを vCenter Operations Manager ソフトウェアがインストールされているドライブと同じドライブに置かないようにしてください。
- 25 [SMTP ホストと SMTP ポート] に、vCenter Operations Manager が E メール メッセージを送信するのに使用する SMTP サーバのホスト名/IP アドレスとポート番号を入力します。
- 26 [受信者] に、1 つあるいは複数の E メール アドレスを入力します。複数を入力する場合は、コンマで区切ります。vCenter Operations Manager サービスが失敗するか、問題が発生した場合、各受信者に E メールが送信されます。
- 27 必要に応じて、[テスト] ボタンをクリックして E メール構成をテストします。ここで、SMTP ホストおよびポートの設定が確認され、入力した受信者宛に E メール メッセージの送信が試みられます。いずれかのテストに失敗すると、該当するメッセージが表示されます。ただし、存在しないアドレスへメッセージを送信しても、すぐに失敗とならないため、受信者として入力された E メール アドレスが実際に存在することを確認することはできません。

- 28 [終了] をクリックしてインストールを完了します。[インストールの完了] ページが表示されます。
- 29 [インストールの完了] ページで、[完了] をクリックします。
- 30 サーバホストに 2 つの IP アドレスがある場合は、
- [いいえ] を選択して [完了] をクリックします。
  - ファイル `vcenter-ops\user\conf\collector\wrapper.conf` を開きます。
  - 次の行をファイルに追加します :
 

```
wrapper.java.additional.9=-Djava.rmi.server.hostname=IP Address/Name。ここでは、IP
アドレス/名前がコレクタに使用する IP アドレスまたはホスト名となります。
```
  - 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。
  - システムを再起動します。

vCenter Operations Manager のインストールが完了します。

## vCenter Operations Manager の Linux へのインストール - コンソール モード

vCenter Operations Manager をサポートされているバージョンの Linux にインストールします。

### 開始する前に

vCenter Operations Manager の以前のバージョンがすでに Linux ホストにインストールされている場合は、vCenter Operations Manager をインストールする前にそのプロセスを停止する必要があります。これは、スクリプト ファイル `vcops.sh` を使用して実行できます。stop パラメータとともに、このスクリプトを実行します :

```
vcops.sh stop
```

サービスがすべて停止したことを確認するには、status パラメータを使用します。

```
vcops.sh status
```

### 手順

- 1 バイナリ モードを使用して、`vcops.bin` をターゲット Linux ホストへアップロードします。
- 2 `vcops.bin` があるフォルダに移動します。実行可能となるよう、このファイル上の権限を変更します :
 

```
chmod +x vcops.bin
```
- 3 このコマンドを入力し、コンソール モードのインストールを開始します :
 

```
./vcops.bin -i console
```
- 4 GUI モードのインストールに入力した情報のすべてが、コンソール モードにおいてプロンプト表示されます。

インストールの完了後、[「詳細な vCenter Operations Manager の構成 \(P. 15\)」](#) を参照してください。

## 詳細な vCenter Operations Manager の構成

詳細な構成を実行するには、構成モードにアクセスし、次の手順にしたがってインストールを完了してください。

### 開始する前に

vCenter Operations Manager をインストールします。

### 手順

- 1 [詳細な構成] から、[サーバ構成] の下の [プライマリ] または [バックアップ] を選択します。

- 2 [vCenter Operations Server の構成] で、[HTTP] または [HTTPS] を選択します。  
これにより、vCenter Operations Manager サーバへのクライアント接続に使用するプロトコルが設定されます。
  - 3 vCenter Operations Manager サーバへのインターネット接続を有効にするには、[vCenter Operations サーバ ホスト] フィールドにサーバ名かサーバの公開 IP アドレスを入力します。  
インストーラは、サーバのホスト名または IP アドレスを検出し、それをデフォルトとして入力しようとしています。このフィールドを空白のままにしておく、ユーザーはローカル ネットワークの外から接続することができなくなります。
- 
- 注意** vCenter Operations Manager は、vCenter Operations Manager サーバへのハイパーリンクを含むアラート E メール メッセージを送信し、管理者がアラートに関する詳細な情報を参照できるようにします。オフサイトの管理者がこれらのリンクを使用できるようにするには、必ず vCenter Operations Manager サーバの公開 IP アドレスを入力してください。ホスト名を localhost に設定しないでください。
- 
- 4 [vCenter Operations サーバ ポート] フィールドには、選択したプロトコルのデフォルトのポート番号が表示されます。このポートを変更する必要がある場合は、正しい番号を入力してください。
  - 5 HTTP ポスト メソッドを使用するアダプタで Web 認証を使用する場合は、HTTP ポスト アダプタ Web 認証を有効にするというチェック ボックスを選択します。
  - 6 [メモリ構成] の下で、vCenter Operations Manager Web JVM プロセスを次のように設定します。
    - [最大メモリ] – vCenter Operations Manager ユーザーに割り当てられた最大のヒープ サイズ。
    - [最大パーマネント メモリ] – JVM クラスのコンパイルおよび実行に割り当てられた最大のヒープ サイズ。
  - 7 [Next] をクリックします。
  - 8 [メモリ構成] の下で、vCenter Operations Manager 分析 JVM プロセスを次のように設定します。
    - [最大メモリ] – メトリック計算に割り当てられた最大のヒープ サイズ。
    - [最大パーマネント メモリ] – JVM クラスのコンパイルおよび実行に割り当てられた最大のヒープ サイズ。
  - 9 [RMI 構成] の下で、RMI が分析サービスへアクセスするホストおよびポートを設定します。
  - 10 [データ ストレージの場所] の下で、FSDB ホームの場所を設定します。  
ドライブ I/O の使用を分散するために、最大で 8 つの場所を入力できます。複数を入力する場合は、セミコロンで区切ります。最高のパフォーマンスを得るために、FSDB を vCenter Operations Manager ソフトウェアがインストールされているドライブと同じドライブに置かないようにしてください。
  - 11 FSDB レプリケーションを有効にする場合は、[レプリケーション サーバ] の下の [レプリケーションの有効化] チェック ボックスを選択します。  
有効化すると、vCenter Operations Manager は、FSDB データをリモート サーバへプッシュします。リモート MQ サーバの次のパラメータを入力します： ホスト、ポート、プロトコル、コントロール キュー、応答キュー、データ キュー、ユーザー名、パスワード。
  - 12 このサーバとレプリケーション サーバとの間で既存データの同期をする場合は、[同期の有効化] チェック ボックスを選択します。  
このチェック ボックスを選択していなければ、このポイント以降に収集されたデータのみが、レプリケーション サーバへコピーされることになります。このオプションは、vCenter Operations Manager の最初のインストール後にレプリケーション サーバを設定する際、最も頻繁に使用されるオプションです。
  - 13 [次へ] をクリックします。
  - 14 [メモリ構成] の下で、vCenter Operations Manager メッセージ キュー JVM プロセスを次のように設定します。
    - [最大メモリ] – vCenter Operations Manager ユーザーに割り当てられた最大のヒープ サイズ。
    - [最大パーマネント メモリ] – JVM クラスのコンパイルおよび実行に割り当てられた最大のヒープ サイズ。



- 15 vCenter Operations Manager 上での JMX 監視を有効にする場合は、[メッセージキューの構成] の下の [JMX の有効化] チェック ボックスを選択します。JMX 監視を有効にする場合は、次の MQ パラメータを設定します：ホスト、ポート、プロトコル、コレクタ キュー、コントローラ キュー、データ キュー、ユーザー名、パスワード。
- 16 [Next] をクリックします。
- 17 収集設定を構成します。
- 18 [メモリ構成] の下で、vCenter Operations Manager コレクタ JVM プロセスを次のように設定します。
  - [最大メモリ] – vCenter Operations Manager リソースに割り当てられた最大のヒープ サイズ。
  - [最大パーマネント メモリ] – JVM クラスのコンパイルおよび実行に割り当てられた最大のヒープ サイズ。
- 19 [コレクタ構成] の下で、コレクタの接続パラメータを次のように設定します。
  - コレクタ名
  - RMI ポート
  - 最大スレッド
  - 最小データ送信サイズ：Center Operations Manager リソースの数によって測定されます。
  - ハート ビート スリープ時間：コレクタの健全性を確認します。ミリ秒で測定されます。
- 20 コレクタから vCenter Operations Manager への HTTP プロキシを有効にするには、[HTTP プロキシの有効化] チェック ボックスを選択します。これを有効にする場合は、ホストとポートを設定します。
- 21 [SMTP ホストと SMTP ポート] に、vCenter Operations Manager が E メール メッセージを送信するのに使用する SMTP サーバのホスト名/IP アドレスとポート番号を入力します。
- 22 [受信者] に、1 つあるいは複数の E メール アドレスを入力します。複数を入力する場合は、コンマで区切ります。vCenter Operations Manager サービスが失敗するか、問題が発生した場合、各受信者に E メールが送信されます。
- 23 [次へ] をクリックします。
 

このページの設定は、vCenter Operations Manager サーバがバックアップ モードで動作している場合にのみ使用されます。

  - [メッセージキュー構成] の下で、レプリケーション サーバのパラメータを設定します：ホスト、ポート、プロトコル、コレクタ キュー、コントローラ キュー、データ キュー、ユーザー名、パスワード。
  - [データ ストレージの場所] の下で、ローカル FSDB ホームの場所を設定します。ドライブ I/O の使用を分散するために、最大で 8 つの場所を入力できます。複数を入力する場合は、セミコロンで区切ります。
- 24 [次へ] をクリックします。
  - [データベース タイプ] フィールドで、[SQL] または [Oracle] を選択します。選択したデータベースに適したフィールドがページ上に表示されます。
 

Oracle データベースの場合、[データベース名] と [インスタンス名] のフィールドは表示されず、[SID] フィールドが追加されます。
  - Oracle データベースを使用している場合は、[SID] フィールドにそのシステム識別子を入力します。
  - [データベース ホスト] フィールドに、データベース サーバの IP アドレスを入力します。
  - [データベース ポート] フィールドは、別のポート番号を使用してデータベースをインストールしていない限り、デフォルトの入力値 (SQL Server は 1433、Oracle は 1521) のままにしておきます。
  - SQL Server データベースを使用している場合は、[データベース名] フィールドに vCenter Operations Manager データベースの名前を入力します。
  - SQL Server データベースを使用しており、データベースのインスタンス名を指定する必要がある場合は、そのフィールドに入力します。

- [認証]、[ユーザー名]、および [パスワード] の各フィールドでは、使用する認証のタイプを選択し (SQL Server データベースの場合のみ)、SQL Server データベースまたは Oracle スキーマの読み書きの権限を持つユーザーのユーザー名およびパスワードを入力してください。

---

**注意** vCenter Operations Manager がデータベースとの接続を確立するには、SQL 認証の認証情報を持つユーザー アカウントが必要です。SQL Server に Windows 認証を使用する場合は、インストールの完了後に追加の手順を実行する必要があります。

---

- [テスト] ボタンをクリックし、データベースへの接続をテストします。テストに失敗した場合、入力値を確認して必要な修正を行い、もう一度実行してください。
- 25 [終了] をクリックしてインストールを完了します。[インストールの完了] ページが表示されます。
- 26 [インストールの完了] ページで、コンピュータを自動で再起動するか手動で再起動するかを選択します。サーバ ホストに 1 つの IP アドレスしかない場合は、[はい] を選択し、システムを再起動して [完了] をクリックします。システムが再起動されます。
- サーバ ホストに 2 つの IP アドレスがある場合は、
- a [いいえ] を選択して [完了] をクリックします。
  - b メモ帳またはその他のエディタで、ファイル `vcenter-ops\user\conf\collector\wrapper.conf` を開きます。
  - c 次の行をファイルに追加します : `wrapper.java.additional.9=-Djava.rmi.server.hostname=IP Address/Name`。ここでは、IP アドレス/名前がコレクタに使用する IP アドレスまたはホスト名となります。
  - d 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。
  - e システムを再起動します。

## vCenter Operations Manager インストールの検証

vCenter Operations Manager サーバのインストールを完了した後、次の手順を実行してインストールが正常に完了していること、および vCenter Operations Manager が正しく動作していることを確認できます。

これらの指示は、Windows サーバ用です。vCenter Operations Manager サーバを Linux で実行する場合は、適宜調整してください。

### 開始する前に

vCenter Operations Manager サーバがインストールされています。

### 手順

- 1 インストール時に [テスト] ボタンを押してデータベース接続を確認しなかった場合、VMware vCenter Operations の構成ユーティリティを使用してそれを実行してください。
  - a [スタート] メニューから、[すべてのプログラム] > [VMware] > [vCenter Operations Manager Enterprise] > [VMware vCenter Operations の構成] を選択します。
  - b [フル構成] ダイアログ ボックスで、[テスト] をクリックします。
- 2 [サービス] ウィンドウを開きます。コントロール パネルから、[管理ツール] > [サービス] を選択します。  
次の vCenter Operations Manager サービスが実行されていることを確認します。ActiveMQ、vcopsWebService、AnalyticsService、CollectorService
- 3 ブラウザから vCenter Operations Manager Enterprise の URL へ移動し、**admin** ユーザーと、**admin** パスワードでログインします。
- 4 ホーム ページで、デフォルトのダッシュボードが正しくロードされていることを確認します。
- 5 [環境] メニューから、[環境概要] を選択します。デフォルトのタグが左側に一覧表示されており、vCenter Operations Manager のリソースが右側に表示されていることを確認します。

- 6 15 分後、vCenter Operations Manager のリソースの健全性が青色から緑色に変わったことを確認します。
- 7 [管理] メニューから、[サポート] を選択します。[サポート] ページで [情報] タブをクリックします。[記述情報] ページに [アダプタの記述が正常に終了しました] と表示されていることを確認します。
- 8 [バージョン情報] タブをクリックします。vCenter Operations Manager Enterprise のバージョンおよびデータベースのバージョンが正しいことを確認します。
- 9 [ログ] タブをクリックします。これらの各ログについて、サービスが正常に開始されたことを確認します。
  - vCenter Operations Web のフォルダの **controller.log**
  - vCenter Operations Web のフォルダの **controller.log**
  - vCenter Operations Web のフォルダの **controller.log**

## プログラム グループの管理

Windows に vCenter Operations Manager をインストールすると、Windows の [スタート]-[すべてのプログラム] メニューの VMware プログラム グループの下に vCenter Operations Manager プログラム グループが作成されます。

プログラム グループには次の 4 項目が含まれます：

<b>VMware vCenter Operations Manager の構成</b>	vCenter Operations Manager 構成設定を変更できるようにします。基本または詳細構成を選択できます。基本インストールも詳細インストールも、同じダイアログ ボックスが表示されます。
<b>すべてのサービスの開始</b>	サーバ上の vCenter Operations Manager 関連のサービスをすべて起動します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ vcopsWebService</li> <li>■ AnalyticsService</li> <li>■ ActiveMQ</li> <li>■ CollectorService</li> <li>■ DTProcessorService (分析プロセッサがインストールされている場合のみ)</li> <li>■ ReplicationServerService (vCenter Operations Manager レプリケーションサーバ上でのみ動作)</li> </ul>
<b>すべてのサービスの停止</b>	上記に一覧表示された vCenter Operations Manager 関連のサービスをすべて停止します。
<b>アンインストール</b>	vCenter Operations Manager をアンインストールします。これにより、vCenter Operations Manager インストーラによってインストールされたコンポーネント (vCenter Operations Manager サーバ、vCenter Operations Manager コレクタおよび分析) がアンインストールされます。アダプタや、リモート サーバ上の vCenter Operations Manager コンポーネントはアンインストールされません。

## vCenter Operations Manager コレクタのインストール

リモート ホストに vCenter Operations Manager Enterprise コレクタをインストールするには、以下の手順に従ってください。パフォーマンス向上のために、vCenter Operations Manager Enterprise の活動を分散する目的でこれを実行することもできます。

### 開始する前に

サービスを作成するのに十分な権限を持つユーザーとしてログオンします。VMware では、管理者のユーザー名を使用することを推奨します。

この手順は、Windows 用ですが、Linux リモート ホストの場合も類似の手順に従ってください。

## 手順

- 1 リモート ホストへログインし、vCenter Operations Manager 実行可能ファイルを含むフォルダへ移動します。
- 2 **vcops.exe** ファイルを実行します。  
vCenter Operations Manager インストール ウィザードの最初のページが表示されます。
- 3 [Next] をクリックします。
- 4 [インストール セットの選択] ページで、コレクタの横にあるアイコンをクリックし、[次へ] をクリックします。
- 5 [インストール フォルダの選択] ページで、[OK] をクリックしてデフォルトのインストール フォルダを受け入れるか、[参照] をクリックしてインストール先フォルダを選択します。  
デフォルトのインストール フォルダは、お使いのシステムのデフォルトのプログラム インストール フォルダの下の `\vmware\vmcenter-operations` です。  
[プリインストール サマリ] ページには、インストールされるコンポーネントが一覧表示されます。
- 6 [Next] をクリックします。
- 7 [インストール] をクリックして、インストールを開始します。  
プロセスのこの部分が完了すると (これには数分かかる場合があります)、[構成モード] ページが表示されます。
- 8 [構成モード] ページで、[基本] を選択します。
- 9 [コレクタ名] で、デフォルト名は vCenter Operations Server です。これは、ローカル コレクタと同じ名前です。  
デフォルトを使用しないでください。コレクタの一意の名前を入力します。
- 10 [vCenter Operations Server の構成] で、[HTTP] または [HTTPS] を選択します。  
これにより、vCenter Operations Manager サーバへのハートビート信号の通信に使用するプロトコルが設定されます。これは、vCenter Operations Manager サーバ上に設定されるプロトコルと一致する必要があります。
- 11 [vCenter Operations サーバ ホスト] に、vCenter Operations Manager サーバの IP アドレスを入力します。
- 12 [vCenter Operations サーバ ポート] に、vCenter Operations Manager サーバ上の設定と同じポートを入力します。
- 13 [ホスト] に、メッセージ キューの IP アドレスを入力します。  
これは、通常、vCenter Operations Manager サーバ ホストと同じです。
- 14 [ポート] は、MQ が別のポート番号を使用している場合を除き、デフォルトの入力値 (61616) のままにしておきます。
- 15 [終了] をクリックしてインストールを完了します。[インストールの完了] ページが表示されます。[終了] をクリックします。
- 16 ホストに 2 つの IP アドレスがある場合は、コレクタがどちらを使用すべきかを定義する必要があります :
  - a ファイル `vmcenter-ops\user\conf\collector\wrapper.conf` を開きます。
  - b 次の行をファイルに追加します : `wrapper.java.additional.9=-Djava.rmi.server.hostname=IP Address/Name`。ここでは、IP アドレス/名前がコレクタに使用する IP アドレスまたはホスト名となります。
  - c 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。
  - d `wrapper.conf` を変更した後、コレクタ サービスを再起動します。
  - e ホストが Windows を使用している場合は、Windows のスタート メニューから、[コントロール パネル] > [管理ツール] > [サービス] を選択します。CollectorService サービスを再起動します。
  - f ホストが Linux を使用している場合は次のコマンドを入力します。 `cd vmcenter-ops/collector/bin/CollectorService.sh restart`

vCenter Operations Manager コレクタのインストールが完了します。

## vCenter Operations Manager アダプタのインストール

このセクションで vCenter Operations Manager Enterprise サーバのインストールと構成方法を説明します。

vCenter Operations Manager Enterprise サーバのインストール時には、デフォルトで 3 つのアダプタがデプロイされています。

- [vCenter Operations Manager Enterprise アダプタ]。このアダプタは vCenter Operations Manager Enterprise を監視します。
- [HTTP ポスト アダプタ]。これは、HTTP 経由で vCenter Operations Manager へデータをプッシュするために使用される汎用アダプタです。
- [コンテナ アダプタ]。vCenter Operations Manager は、このアダプタを使用し、コンテナ リソースを作成します。

その他のすべてのアダプタ ファイルは、別途供給されます。追加アダプタのインストール ファイルについては、VMware の担当者にお問い合わせください。アダプタ インストール ファイルを入手したら、インストール手順にしたがってください。追加の指示がある可能性があるため、アダプタに同梱されているドキュメントを参照してください。

### アダプタのインストール

vCenter Operations Manager スタンドアロン インストールの場合は、この手順にしたがってアダプタをインストールしてください。

アダプタは、インストールしたりリモート vCenter Operations Manager コレクタではなく、vCenter Operations Manager Enterprise サーバ上にのみインストールする必要があります。下記のステップ 6 で [記述] ボタンをクリックすると、すべてのリモート コレクタに対してアダプタが「プッシュ」されます。

#### 開始する前に

- VMware テクニカル サポートからアダプタ用のファイル入手します。
- アダプタ ファイルに同梱されているドキュメントをお読みください。ここに追加のインストール指示が含まれている場合があります。

#### 手順

- 1 一時フォルダで、アダプタ ファイルを開き、展開します。
- 2 一時フォルダから、**AdpaterName\_intsall.exe** ファイルを実行します。
- 3 セットアップ ダイアログ ボックスの指示に従います。
- 4 vCenter Operations Manager を起動し、管理者としてログインします。  
例: **https://<ipaddress>/vcops-custom/**
- 5 [管理] - [サポート] を選択します。
- 6 [情報] タブで、[アダプタ] ペーンの [記述] アイコンをクリックします。

vCenter Operations Manager がアダプタ ファイルを検出し、アダプタのアビリティに関する情報を集め、アダプタに関する情報でユーザー インターフェイスを更新します。

アダプタがインストールされます。認証情報を定義し、新しいアダプタの新しいインスタンスを作成します。

## 分析プロセッサのインストール

このセクションで vCenter Operations Manager 分析プロセッサのインストールと構成方法を説明します。

vCenter Operations Manager サーバのインストールには、各種 vCenter Operations Manager 分析の計算をすべて実行するプロセスが含まれています：動的しきい値、フィンガープリントなど。vCenter Operations Manager では、動的しきい値の計算のみを扱うよう、1つあるいは複数のリモート ホストに別途分析プロセッサ (DT プロセッサと呼ばれる) をインストールするというオプションも提供されています。これには 2 つのメリットがあります。

- 分析処理が 2 つあるいはそれ以上のホスト間で分散するため、パフォーマンスが向上し、サーバ上の需要が緩和されます。
- 動的しきい値計算のための専用プロセスを設ける場合、動的しきい値に問題があっても、分析プロセス全体が停止することはありません。

## 分析プロセッサのインストール

1つあるいは複数のリモート ホスト上に DT プロセッサをインストールできます。Windows と Linux の両方のホストがサポートされています。インストール プロセスはどちらも同じです。

### 開始する前に

vCenter Operations Manager Enterprise サーバ インストールの最初の 6 つの手順を実行します。

### 手順

- 1 [インストール セットの選択] ページで、[分析プロセッサ] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 2 [インストール フォルダの選択] ページで、デフォルトを受け入れるか、[選択] をクリックしてプロセッサのインストール先フォルダを参照します。[Next] をクリックします。
- 3 [プリインストール サマリ] ページには、インストールされるコンポーネントが一覧表示されます。[インストール] をクリックして、インストールを開始します。
- 4 [DT プロセッサの構成] ページで、[vCenter Operations Server] フィールドに vCenter Operations Manager サーバホストのホスト名または IP アドレスを入力し、[ポート] フィールドに RMI が分析サービスにアクセスするポート番号を入力します。デフォルトは 1199 です。[保存] をクリックします。
- 5 [インストールの完了] ページで、[完了] をクリックします。
- 6 vCenter Operations Manager Enterprise サーバ ホスト上で、ファイル `vcenter-ops\user\conf\analytics\advanced.properties` を編集します。
- 7 `distributedDTCalculationEnabled` プロパティを検索し、それを `true` に設定します。
- 8 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。
- 9 vCenter Operations Manager サーバ ホスト上の分析サービスを再起動します。
- 10 リモート ホスト上でサービスが起動しているかどうかを確認します。サービス名は、分析プロセッサです。

DT プロセッサのインストールが完了します。

# インデックス

## V

vCenter Operations Manager のインストール 10  
vCenter Operations インストールおよび構成ガイドに  
ついて 5

## あ

アーキテクチャ 5  
アダプタ, インストール 21

## い

インストール, Linux 15  
インストール, Linux GUI モード Linux ガイド モード,  
インストール 12  
インストール, Windows 10  
インストール, アダプタ 21  
インストール, 検証 18  
インストール, 分析プロセッサ 21, 22

## お

オペレーティング システム, 要件 6

## か

概要 5

## く

クライアント システム要件 7

## こ

構成, 詳細 15  
コレクタ, インストール 19

## そ

ソフトウェア要件 6

## ち

チェックリスト, インストールおよび構成 7

## て

データベース サーバ要件 7  
データベースの準備  
Oracle 9  
SQL Server 8  
概要 8

## は

ハードウェア要件 6

はじめにはじめに 5

## ふ

プログラム グループ 19

## よ

要件, ハードウェア 6

